

12月10日（日） ショートメッセージ

聖書 列王記上 22章10節～17節 （旧約 572頁）

メッセージ 「人間の思惑と神の言葉」

彼は答えた。「イスラエル人が皆、羊飼いのいない羊のように山々に散っているのをわたしは見ました。主は、『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ自分の家に無事に帰らせよ』と言われました。」（列王記上 22章17節）

（1）預言者は王に神の言葉を届けました。その言葉は王にとって都合のいい言葉ばかりではありません。神の言葉と王の思惑とが違った時、王にとって都合のいい言葉、王に付度して神の言葉を語らない偽預言者もいました。そのため、神の言葉に忠実な本物の預言者は王から遠ざけられたり、迫害されたりして苦しめられました。

（2）先週のイザヤの預言から約300年も前のことです。この頃、聖書の民の王国は北と南に分裂していました。北王国はイスラエル、南王国はユダと名乗りました。

北王国イスラエルはアラムと戦争状態にありました。北王国の王アハブは、南王国ユダの王ヨシャファトに対し、一緒にアラムと戦おうと申し出ました。ヨシャファトはアハブの申し出に応じましたが、「まず主の言葉を求めて下さい」と伝えました。そこでアハブは約400人の預言者を集めて神の言葉を求めました。すると預言者たちはアハブの思惑を汲み取って、戦いに勝利するという預言を語りました。

ところがヨシャファトは、預言者たちが神の言葉よりもアハブ王の思惑を優先しているのではと思い、他に預言者はいないかと尋ねました。するとアハブは、もう一人、主の御旨を尋ねることのできる者がいること、しかし、彼はわたしに幸運を預言することがなく、災いばかり預言するので、わたしは彼を憎んでいる。イムラの子ミカヤという者だと答えました。ヨシャファトは

アハブに、そんなことを言うてはいけないといさめました。そこでアハブは使いの者に預言者ミカヤを呼びに行かせました。使いの者はミカヤに、王に幸運を告げるようにと言い含めました。そこでミカヤは王に対し、「**攻め上って勝利を得てください。**

主は敵を王の手にお渡しになります」

（15節）と答えました。使いの者の言うとおりにわざと偽りの預言を伝えたのです。しかし、アハブはミカヤが真実を伝えていないことを見抜き、真実だけを伝えよと迫りました。

するとミカヤは、あなたは命を落とし、戦いに敗れ去るという預言を伝え、さらに、真実の神の言葉を語り続けましたが、アハブ王にとっては都合の悪いことばかりでした。アハブ王は預言者ミカヤを捕まえると獄につながしました。

（3）アハブ王は、ミカヤを通して伝えられた神の言葉を聞こうとせずにアラムとの戦いに行きました。しかし、そこで命を落としました。ミカヤの預言の通りになりました。このエピソードは私たちに、たとえ強い王の思惑であっても、神の言葉を覆すことはできないことを伝えます。

当初、預言者ミカヤは偽りの預言を王に伝えました。真実を伝えてもどうせアハブ王は受け入れないだろうと思ったからでしょうか。いずれにせよ、預言者ミカヤは知っていました。王であっても神の言葉を覆すことはできないことを。（多田玲一牧師）